

CLSI ガイドラインに準じた大腸菌の簡易同定法の検証

喜多いずみ

2020 年度修了生の喜多いずみです。細菌の同定検査においては、質量分析装置を用いた迅速な同定法が普及しつつありますが、費用などの面から導入に至らない施設も多く、同定の迅速化に関する課題は完全に解消されていないのが現状です。今回、臨床検体から高頻度に検出される大腸菌の同定に関して、Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI)が発行する簡易同定法のガイドラインである M35-A2 に記載された方法 (CLSI 法, 図 1) ¹⁾ およびこの原法にあたる York らの方法 (原法) ²⁾ に基づいて各種性状検査を実施し、結果を比較、検証してみました。本検証には、臨床検体から分離されたオキシダーゼ試験陰性かつスポットインドール試験陽性の腸内細菌目細菌、全 543 株 (大腸菌: 478 株, その他菌種: 65 株) を使用しました。結果として、大腸菌は CLSI 法および原法ともに全株で同定可能であり、全体の 99% が 30 分以内に結果を判定できました。しかし、対照株では CLSI 法で 6 株, 原法で 1 株の誤同定を認めました。これらは β 溶血を示した *Morganella morganii* 5 株による CLSI 法のみでの誤同定と、PYR 試験陰性の *Klebsiella oxytoca* 1 株による両方法での誤同定に起因しており、日常検査では原法の使用がより適切であると示唆されました。本手法は、日常検査の様々な場面で、施設毎の必要に応じた効果的な導入が望ましいと考えています。この内容は、医学検査誌に掲載されていますので、興味のある方は是非ご一読ください ³⁾。

- 1) Baron EJ: Abbreviated Identification of Bacteria and Yeast (M35-A2). 2nd ed, Clinical and Laboratory Standards Institute, Pennsylvania, 2008.
- 2) York MK et al. : Multilaboratory validation of rapid spot tests for identification of *Escherichia coli*. J. Clin. Microbiol, 2000; 38: 3394-3398.
- 3) 喜多いずみ, 大瀧博文: CLSI ガイドラインに準じた *Escherichia coli* の簡易同定法の検証, 医学検査, 2021, in press.

図 1. CLSI document M35-A2 に準じた大腸菌の簡易同定法

